市町村との意見交換会について

日時：令和４年７月２１日（木）

午後３時１５分～午後４時４５分

場所：大阪府立国際会議場３階

イベントホールＡ

開会　午後３時１５分

○事務局長（山下芳弘）

定刻となりましたので、ただいまより市町村の皆様と関西広域連合との意見交換会を開催させていただきたいと思います。

私、本日、司会を進行させていただきます関西広域連合本部事務局長の山下でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

初めに出席者の皆様をご紹介すべきところではございますが、お手元の出席者名簿でもって代えさせていただきます。

それから、資料につきましては、次第と資料１「第５期広域計画の骨子について」資料２「ワールドマスターズゲームズ関西」について。それから、参考資料の１として、「令和４年度当初予算の概要」。参考資料２として、「前回の市町村意見交換会でいただいた意見にかかるフォローアップ」の資料を配付資料とさせていただいております。

それから、この意見交換会は公開としておりますので、ご了承のほどよろしくお願いします。

それでは、最初に、仁坂広域連合長よりご挨拶を申し上げます。よろしくお願いします。

○広域連合長（仁坂吉伸）

皆さん、こんにちは。広域連合長の仁坂でございます。本日はお忙しいところこのようにお集まりいただきましてありがとうございます。広域連合も我々いつも集ま

って、それで、関西全体のために何がいいかという話を考えながら実行しているのでございますが、やっぱり皆さんのような市町村の方々とちゃんとお話をして、それで、地に足のついた議論をしていかないといけないというふうに思っております。したがって、こういう場は我々にとって大変貴重な場でございますので、皆様も忌憚なきご意見を賜りますようにお願いします。我々も誠実にそれにお答えするような議論をいつもしているつもりですけど、それだけだといけないので、実は参考資料２に今回用意しましたが、その後、我々はこんなふうにして実行しました。あるいは、しようとしましたができませんでしたというような話をフォローアップして、報告しております。今日の議論もまたそんなふうにして、次の機会までにフォローしていきたいと考えております。

せっかくでございますので、若干先走りますけども、最近の動きをご説明します。

まず、コロナでございますが、これはもう大変なことになって、和歌山県も今日は１，３８４名なんて驚異的な数字が出るようであります。各県とも過去最高を更新という感じになって、各県全部ではないですが、これは大変ということで、我々の中で議論をしたりしているんですけど、どうも決め手に欠くなというのが今の状況で、私自身でいえば自信喪失という感じであります。ただ、和歌山県に関していうと、保健医療行政を担当する職員はものすごく一生懸命頑張っていて、これは各県みんな同じだと思います。そういう意味では、何とかこれに耐えて、いつか収束していくと思いますので、それまでに多くの人が亡くなったりしないようにしていかないといけない、こういうふうに思っている次第であります。

今日は、関西広域連合委員会で宣言を発出しました。こんな状況でございますので、府県市民の方々も基本的な感染対策をもう一度きちんとやるとか、あるいはリスクを避けるとか、そういう行動をしてくださいねということで、そんなに新味がある話でもないですけども、改めて府県市民に呼びかけたところでございます。

それから、トピックに関していうと、文化庁の関西移転があります。これは、数年

前から決まっておりました中央省庁の一部の移転というものの実現の３番目であり、かつ最大のものであります。ちょっと前には和歌山県の総務省統計局の一部移転。それから、徳島県への消費者庁の一部移転。それから、今度はとうとう文化庁の一部といったらちょっと小さ過ぎるような、ほとんど全部移転というふうなのが実現いたします。京都市であります。これをまた基にして、文化行政、京都府、市、担当でございますけども、そういうものを盛り立てていくということが可能になってくるのではないか、そんなふうに思っております。

それから、広域計画、これがサイクルで３年に１回度の改定の時期に来ております。今年中につくっていこうというふうに思っておりますが、これについて、皆さんのご意見も踏まえながら考えていかないといけないということで、今日のご意見も踏まえてつくっていきたいと考えております。

それから、二つさらにトピックスがあって、万博があります。大阪・関西万博、さきおととい１０００日前記念イベントというのがユニバーサルスタジオでございまして、若宮大臣がお越しになって、吉村知事とか松井市長とか、それから、関経連の松本会長とかとともに私も壇上でにっこり笑って、シンボルマークがミャクミャクというんだそうですけど、シンボルが。そういうもののお披露目があったりいたしました。そういう点では、だんだん盛り上がってくると思いますけども、我々はそういう一般的なメディアを通じた盛り上がりを待っていたら、やっぱりこれはまずいなというのもあって、積極的、能動的に万博の機運醸成とか、万博をどうやって自分たちのものにしていくかというようなことについて、主体的に考えていかないといけないというふうな事態にあると思っております。これも市町村と一緒にやるべき話でございますので、また皆さんとよく相談をしていきたいと考えております。

さらに、ワールドマスターズゲームズ、ここの場でも、これは今年は開催したら駄目ですよというような意見があって延期させていただいていたわけです。いろいろ途中経過を後でご説明しますが、全部省略していうと、ようやく２０２７年５月に開催

するというふうに国際機関ＩＭＧＡとも合意して決まりました。今度はそれを基にして、もう一回リスケジューリングして、世界一の大会を、史上空前の大会をやってやるぞというふうに思っておりますが、これも皆さんとまたご相談していきたいというふうに思っております。

今日の議論が関西全体の発展のためにうまく結実してまいりますように、今日ももちろんですが、これからも努力してまいりたいと考えております。本日はどうもありがとうございました。

○事務局長（山下芳弘）

ありがとうございました。それでは、本日の意見交換会の段取りをご説明したいと思います。

まずこの後、関西広域連合の次期広域計画とワールドマスターズゲームズ関西に関して、事務局より説明をさせていただいた後に、事前にいただいておりますご意見について、意見交換をさせていただき、その後は時間の許す限り自由に意見交換とさせていただきたいと思っております。

それでは、まず事務局から、広域計画についてご説明お願いします。

○事務局（高井廉之）

本部事務局計画課でございます。資料１をご覧ください。私からは広域連合の広域計画についてご説明いたします。

広域連合の広域計画ですけども、皆さんご承知のとおり、地方自治法に基づき作成することとなっております。この連合が設立したときに第１期の計画を作成してございます。その後、３年ごとの計画の見直しを行っておりまして、現在、第４期の計画を運用中でございますが、今年度末で終了になります。そのため、第５期の計画を今年度中に策定しまして、来年度当初から走らせる必要がございますので、今まさに策定作業を行っている過程でございます。今回は、先月、骨子ができましたので、骨子を資料提供させていただきたいと思っております。まだ本当に項目出しだけで、まだ

本文が入ってなくて恐縮ですけども、これに基づいて説明させていただきます。

まず、資料１の１枚目に関しては、その骨子の説明紙になります。２枚めくっていただいて、５ページから９ページに至るところまでが骨子となっております。

まず、説明紙をベースに説明させていただきます。

１番目のポツの踏まえるべき視点というところですけども、これ今回の計画の中に、視点としていろんなところでこの八つの視点というのを溶け込ます必要があるということで、この八つの視点を設定させていただいております。

上から順に、大阪・関西万博はもちろんのこと、ワールドマスターズゲームズ、また、ウイズコロナを意識した取組であるとか、デジタル化推進の取組、また、大規模広域災害を想定した取組、脱炭素社会の実現に向けたＧＸの取組、東京一極集中の是正に向けた取組、ＳＤＧｓの達成に向けた取組、この八つの視点を掲げております。

これらの八つの視点につきましては、今まさに中間案をつくっているところですけども、中間案に本文を肉づけしていく過程でこの要素を溶け込ませていくというふうに考えております。

２番目のポツになります。現行の４期計画からの主な変更点でございます。

目指すべき将来像というページがあります。説明紙の裏面を見ていただいて、めくっていただいて、４期計画と５期との違いですけども、分権型社会を先導する関西というところに、新しい考え方として、新次元の分権型社会を先導する関西というふうに定義づけております。あと、（２）のところに、デジタル化の推進という要素も付加しております。これらの表記につきましては、ちょうど２年前、関西広域連合が１０周年を迎えたときに発表した、関西新時代宣言というのがございまして、そこを参考に記載しております。

広域事務につきましては、七つの分野で行っておりますけども、これも引き続き７分野を継続して実施していきたいというふうに考えております。一方で、企画調整事務に関しましては、新たに今１０個の企画調整事務を行っておりますけども、新たに

１１番目にデジタル化の推進という分野で企画調整事務をさらに追加して展開していきたいというふうに考えております。

あと、その他詳細の変更点につきましては、５ページ目以降の実際の骨子のところの一重線のアンダーラインを引いたところが変更箇所となっております。

３ページ目の第５期計画と現行計画との対応表というＡ４横の表、こちらにも実際の変更箇所について記載しております。

また、１０ページ目の別添１－２でございますけども、私どもこの計画を策定する際には、外部有識者の方々の意見を拝聴しながら進めておりまして、先般５月にこの外部有識者で構成する広域計画等推進委員会を開催しまして、その際にこの骨子を提示させていただいて、ご意見をいただきました。その結果をまとめております。委員の皆様方からは、例えば、新型コロナウイルス感染症が地域経済社会に与える影響とか、今後の地域労働市場の在り方などを具体的に記載すべきというご意見もございましたし、もっと硬い内容だけじゃなくて、一般の方々にももっと分かりやすく親しみやすいものとすべきでないかという意見もございました。これらの意見も踏まえながら、今後、中間案、最終案に反映させていきたいというふうに考えております。

最後にスケジュールになりますけども、説明紙２枚目の３ポツのところに、今後のスケジュールということで、今まさに中間案を策定中でございます。１０月には、中間案といいましても、もう本文が入ったほぼ最終版に近いイメージですけども、中間案を確定いたしまして、そこからパブリックコメントを１か月かけて実施する予定でございます。その後、１月に委員会で最終の計画案を確定いたしまして、３月の広域連合議会で上程して、議決していただいて確定させるというふうなスケジュールとなっております。

私からは以上の説明になります。

○事務局長（山下芳弘）

引き続き、ワールドマスターズゲームズ関西組織委員会の中塚事務局長からお願

いします。

○ワールドマスターズゲームズ2021関西組織委員会事務局長（中塚則男）

私のほうから資料２に基づいてご説明申し上げます。冒頭、仁坂連合長からもお話がありましたように、ワールドマスターズゲームズの再延期後の会期が２０２７年５月に決定しました。ＩＭＧＡ国際マスターズゲームズ協会と関西組織委員会とで先だって合意いたしまして、既に発表させていただいてるところです。

１の会期の決定の下の経緯のところで簡単にここに至る経緯をご説明申し上げます。昨年の１０月に関西組織委員会理事会を開きまして、コロナ禍に鑑みて、さらなる延期を決定し、できれば２０２６年、この２６年の５月を選定した理由は、下に台湾大会と書いてありますが、２０２５年の次期台湾の世界大会の後なるべく早くということで２０２６年５月を我々は希望し、ＩＭＧＡと交渉しておりましたけれども、台湾大会の次に開催すること自体は今年の３月、会長同士の協議で決定しました。ただ、ＩＭＧＡ側としては、２０２７年、もう１年先の開催の提案がありました。その間、我々は２０２６年がベストなんだということでいろいろやり取りをしていたんですけども、二つ目の丸に書いておりますように、最終的にＩＭＧＡが、開催の決定権を持っておりますので、強い態度で２０２６年５月は認められないという通知がありました。この後、内部で協議しまして、これを受けざるを得ないという判断をいたしまして、２０２７年５月を選定させていただきました。

２のところに、大会開催方針（案）とあります。この中身は、ＩＭＧＡの理事会の承認を得るというのが契約になっておりますので、この手続はいるんですけども、基本的にこの中身でいきたいと考えております。会期は２０２７年５月の後半の１７日間を予定しています。公式競技、開催場所、目標参加数については、あるいは主催その他については一切変えずに、もともと計画していたとおりのことを２０２７年５月にやっていきたいというふうに計画しているところです。

３の当面の取組方針ですけども、まず何より大事なのは、５年先となりましたので、

この大会の機運、ある程度盛り上がってきていましたので、それを何とか維持し、そして、２０２７年の大成功につなげていくために、忘れ去られないように、そして、機運をさらに盛り上げていくための取組を今年度から着手しないといけないということで、一つは著名なアスリートの方々の協力を得て応援していただく、参加を呼びかけていただくという一つの事業を展開していきたいということを考えております。二つ目には、（２）で書いていますように、海外の方に呼びかけるのに何が一番効果的かということをプロフェッショナルの皆さんに相談してるんですけど、どうもフェイスブックとかグーグル広告というのが一番効果があるんじゃないかということが分かってきましたので、これを今設計しているところです。最後に、各都道府県の実行委員会、あるいは開催市町の皆さんのご協力を得て、プレ大会その他に取り組み、なおかつ関西マスターズゲームズ２０２２ということで、関西広域連合のほうでも取り組んでいただき、進めていただいています。

次のページに別紙ということで三つスケジュール等を書いております。

一つ目が、ウォームアップジャパンフロム関西、これは関西組織委員会副会長でもあります柳本さん、女子バレーの監督をされていた方ですけども、この方が中心になってアスリートの会議が、財団法人で幾つか会をつくってらっしゃいます。その皆さんの協力を得て、このウォームアップジャパンフロム関西という事業を展開していきたい。具体的には、各地でスポーツイベント等を企画し、地元の自治体と協力して企画し、そこに著名なアスリート、柳本監督自身もそうですし、朝原さんという４００メートルリレーで最近頑張られた朝原さん、そういった方を派遣して、そこで大いに盛り上げて、ワールドマスターズゲームズを知っていただく。なおかつ、スポーツ愛好家の皆さんに参加を呼びかけていただくということを地道に進めていきたいと考えます。

なお、パワーアップジャパンフロム東京という事業を、この方々が既に東京オリンピックに向けて東北のほうで展開されてきた実績があります。その流れを受けて、今

度これを関西から引き継いで日本全体を元気づけようと、そういう構想で既にスケジュールが入っておりますけれども、今のところ東北とか、あるいは九州、離島とか、そういうところにこれまでのネットワークで培われたところから今始めていこうというふうな事業を展開しています。

別記の２ですけども、これは各都道府県の実行委員会なり開催市町の取組ということで、関係競技のテスト大会・プレイベントに加えて、その中にレガシー先行事業ということで、今日もお見えですけども、マスターズ花園というふうに、本来２０２１年ないし２０２２年のワールドマスターズゲーム関西大会を踏まえて、そのレガシーとしてやっていこうと計画されていた事業を先行してやっていただく、これは典型的な例ですけども、こういうレガシー先行事業的な取組、プレ大会を２０２７年に向けて波状的に展開していくということで、今、計画が上がっているところを、代表的なものを今ここに列記しました。

最後のページにありますのが、関西広域連合のほうで既に計画、予算化されて、もう取り組み始められている事業で、一つが冠をつけた大会、（１）になりますけども、これは従来やってきたものをさらに充実して継続していただくということ。（２）は新たに広域大会ということで、一種のプレ大会的なものに位置づけることもできるかと思います。こういう事業を展開していただく。

これ以外にも経済界でも様々な取組を計画していただいておりますので、関西の各アクターが一緒になって盛り上げていくということを、これから組織委員会が調整しながら、コーディネートしながら展開していきたいというふうに考えているところです。

以上です。

○事務局長（山下芳弘）

ありがとうございました。

それでは、事前にご意見をいただいておりました、河内長野市様、天理市様からご

発言いただき、その後、広域連合のほうから発言させていただきたいと思います。

まず、島田河内長野市長様、よろしくお願いいたします。

○河内長野市長（島田智明）

河内長野市長の島田です。着座で失礼いたします。

私のほうから二つ意見がございまして、二つとも関係してるんですが、最近はテレビよりインターネットという時代で、特にインターネットの中でユーチューブをはじめいろんな動画を見るという傾向があると思います。そういった意味では動画からの情報発信というのは、これからキーになってくるんじゃないかと思いまして、こういった動画づくりをしてみてはどうかというご意見です。

まず、当面のところで我々考えていかないといけないのが、大阪・関西万博２０２５だと思います。これに関して動画をつくっていけばいいんじゃないかということで、関西広域連合のウェブサイト、ユーチューブにいくと、カンサイジーンというビデオがありまして、多言語でつくってるんですが、非常に質が高くて、非常にいいものでした。例えば、大阪の中で本市河内長野に滝畑というところがあるんですが、それがちょこっとだけ映るんです、数秒だけ。数秒だけ映るんですごくいいんですけれども、ほかのところも大体数秒ごとで全体的には総花的なんですけど、全体的で見ると、何か日本てすばらしいなという印象だけは受けるんですけれども、各場所に行ってみようかというところまではなかなか、その数秒ごとのいろんな地域紹介では難しいかなと。ですので、紹介のみにとどまっているような気がするわけなんです。もう少し深掘りするために、それを地域別、あるいはテーマ別に、せっかく質のいいビデオですので、そういうのをもっと作成していただけないかなと思っております。

先ほどの仁坂知事のご挨拶聞いてて思ったんですが、待ってるだけじゃなくてやはり主体的にみんなが考えていかないといけないというお話しでしたんで、地域別というのも、どちらかというと関西広域連合がつくるよりも、各市町村につくれと、多言語の、指示してくださって各市町村がつくるというのも手かなとちょっと思ったりも

します。つくることによって自分たちも大阪・関西万博に関係してるんだ、外国人を呼び込んでいくんだというところが主体的に考えていくことになると思いますので、そういう枠組みでもいいんですが、とにかく今の状態ですと、なかなか総花的なんで、なかなか誘致まではつながっていかないかなというところを思っております。テーマ別というのは、観光を中心に考えてますけれども、いろんなツーリズムあります、文化財とか、自転車とか、農泊とか、酒蔵巡りとか、そういうテーマ別で関西のいろんなところのを紹介するのも手だしと思ったんですが、何でも結構です。もう少し、要は細かい部分までいって、紹介というよりも誘致を目指す、そういった動画づくりをお願いしたいなというところでございます。

二つ目は、同じこれも関西万博なんですが、関西万博のテーマがいのち輝く未来社会のデザインということです。全世界共通の課題としまして、少子高齢化、地球温暖化、この二つがキーになってくると思います。各市町村、あるいは各地域、最新技術を使っていろんな取組をしてると思います。地球温暖化にしろ少子高齢化にしろ。例えば、本市では、少子高齢化の高齢者に優しいまちづくりというところで、自動運転の乗合バスを、まだ初歩の段階ですけれども、そういうのを使ったりとか、いずれはドローンの配送もしたいというところがありますので、そういったところ進んでるところもありますので、そういったところ、日本では全世界共通の課題に関してこういう取組を市町村でやってますよという紹介をするビデオというのは、すごく魅力的に映ると思いますので、先ほど一つ目のほうはどちらかというと観光振興なんですが、こっちのいのち輝く未来社会のデザインに合う少子高齢化とか地球温暖化というのはレジャー的なとこじゃなくて、お勉強とか視察という意味合いが強いと思うんですけど、そういった動画というのも、関西万博に向けてつくっていただけないかというご提案です。ほかの枠組みでつくればいいじゃないかというお話もあるかと思うんですが、ぜひお願いしたいというところでございます。

以上です。

○事務局長（山下芳弘）

ありがとうございました。

それでは、続きまして、並河天理市長様、よろしくお願いします。

○天理市長（並河　健）

奈良県天理市長の並河でございます。仁坂連合長はじめ広域連合の皆様にはお忙しい中、貴重な機会をいただきまして本当にありがとうございます。

先ほど第５期の広域計画の骨子についてもご説明いただいたところでございますが、私から２点申し上げたいと思います。意見書を事前に出させていただいたときからすると、少し感染がまた第７波という状況にはなっておりますが、ウイズコロナ、アフターコロナに向けてというところで、ぜひ、やはりリアルとデジタルのバランスをどのような社会を模索していくのかということについて議論を深めるのが大事だと思っております。第６波の終息以降は、相当リアルでの対面を回復させた業務形態ですとか、イベントが増えてきているなということで、そのこと自体決して否定されるべきではないというふうに思っておりますけども、このコロナ禍の下でやはりテレワークを活用した柔軟な働き方、リモート学習、また、遠隔診療など、いろいろ進展してきている中で、それが一定定着されている企業さんもあれば、テレワークなんかでも少し元に戻っていってしまっているだけというところも見受けられるところでございます。政府においてもデジタル田園都市国家構想を重視していただいておりますので、この辺りは先端技術を活用しながら、やはり地方で豊かに暮らしていける方策というところを、この広域連合全体で、我々市町村も一緒に模索させていただければと思いますし、以前この場でもＧＩＧＡスクールについて意見が出ておりましたですけども、デジタル教材の導入なども、やはり基礎自治体の財政力で結構差が出てきてしまうところかなと思います。そういった部分もやはり全体として上がっていくように国の財政支援も含めて広域連合からも声を上げていただければというのが１点目でございます。

２点目は、ＧＸについてでございますが、ロシアのウクライナ侵攻を受けて、エネルギー価格高騰というところで、今、対策の必要性というところは一丁目一番地かと思いますし、脱炭素の取組は今後加速化していくんだろうと。しかしこれが地方に何か負の要素を押しつけるような形ではいかんと思っておりまして、例えば、太陽光発電については、地方の森林を大規模に伐採したり、あるいは傾斜地に設置されている事例、地元には太陽光でいい話ですよという話だったところが、気づいてみたら残土の処分場の隠れみのになってるとか、いろんなケースが見られるところでございます。本市においても、土砂災害特別警戒区域では、もうこの太陽光というところは禁止させていただきたいであるとか、あるいは農業、景観等に大きく影響するようなところでは、地元にしっかり説明してくださいというような条例を設けておりますけども、やはり基礎自治体の対策では強制力の点で限界もあるかなというふうに思っておりまして、今後、脱炭素の名の下にかえって地方の自然、生活環境が負荷をかけられるような事態というのは避けないといかんという中で、都市部の皆さんについてもそれを自分ごととして捉えて、地方の自然の環境保全としっかりバランスが取れた形で、このＧＸであったり脱炭素化が進んでいくように、広域連合としても力を発揮いただければと考えております。

以上、２点でございます。

○事務局長（山下芳弘）

ありがとうございました。

それでは、ただいまのご意見に対し、広域連合のほうからコメントさせていただきたいと思います。

まず、仁坂広域連合長、よろしくお願いします。

○広域連合長（仁坂吉伸）

それでは、まず島田市長さんからのお話でございますが、二つあって、両方動画をつくれということでありましたが、お話の間で、自分たちでつくったほうがいいか

な、というようなお話もありました。その点について、少し周辺も含めて申し上げますと、手段の問題と、それからターゲットの問題があります。

ターゲットの話としての万博の話をさせていただきますと、これは関西広域連合の各府県市全部、万博は我々の発展にとってものすごく大事なイベントだというふうに認識しているわけです。これをうまく利用しないと損だと。どうやって利用するかということを考えると、やっぱり万博をゲートウェイということにして、それで、万博に集まった世界のエネルギー、もっと具体的にいうと観光客や見物客、そういう方々をそれぞれ関西の地域に散ってもらって、そこでまたそれぞれの特徴ある体験をしてもらう。そのプロセスでお金も落としてもらう。こういう考え方を今中心にして、準備をしております。具体的に言うと、ゲートウェイのシンボルとして、関西パビリオンというのをつくると。これは大阪府・市パビリオンの横のほうにちょっと小ぶりですけどつくると。そこでは、関西全体の紹介もするけれども、基本的には希望に応じてその中を分割して、それで、例えば、和歌山館とか、滋賀館とか、その中に部分集合としてあると。それぞれのところはどうやって客を引っ張り込むかということについての哲学はみんな違うだろうから、例えば、和歌山でいうと、逆立ちしても観光しかないなと思っているので、バーチャルリアリティーで来てくださった人に会場で疑似観光体験をしてもらって、それでいいなと思ったらリアルに和歌山県が待っておりますと、こういうようなセットで行こうかと思っているわけです。ただ、それは観光に限らず、例えば、先端技術について、同じようなことを考えておやりになるところがあっても全然おかしくはないので、みんなそれぞれ考えてくださいという話にしています。

あわせて、今日たまたま議論していたんですが、イベント会場があちこちにつくられておりますので、関西全体で何らかのイベントをして、それで関西というのはすばらしいということをそこで大いにアピールし、要するに材料はそれぞれの各府県市にあるわけですから、そういうところへまた直接行ってもらうというようなことも図り

たい、こんなようなことを考えているわけでございます。その中には物販もあれば、うまいものを、名産品を食べさせるというのがあってもいいし、食事とか、それから、お祭りというのを味わってもらうというのもいいと思うし、これからちょっと考えていこうかという話になっております。

そういうふうに考えるのともう一つは、それが早いうちに各府県市の住民の方々、あるいは産業界の方々が自分のものとして意識して、それに対応して、それぞれ適応していただいていかないと、急に言われてもなかなかできない。例えば、先ほどの和歌山の観光でいえば、観光客が来たときに受入体制は十分かというようなことも、それは地元側で考えとかないといけないというようなことがあります。そのためには、万博って遠いなというふうに思われると困るので、機運醸成というのが大事でございますから、これも和歌山県では、かなりの大シンポジウムを開いて、そこから受皿としての官民協議会をつくって、みんなで情報を共有して頑張ろうと、こういう話にしてありますけど、そういうのを各府県市でみんなやっていただいたらどうでしょうか、やり方はいろいろですけどね、というようなことを考えております。これが万博についての手段です。

もう一つは、メディアとしての在り方について言われました。万博をソフトにして、それぞれ宣伝するものを動画としてつくってちょうだいと、こういう話ですが、整理して考えると、みんなつくるべきものはみんなそれぞれ違うはずだから、先ほどのようなメカニズムからいえば、つくるほうは市町村とは言わないまでも、各府県市であったり、ひょっとしたら市町村であったりじゃないかな。メディアとしては、共通のメディアがあったほうがいいなというふうに思っておりまして、これは次の広域連合の業務の深化として、例えば、防災情報なんていうのも一つの一覧性のある関西広域連合のサイトから入れるようにして、それでそれぞれみんないろんなことを、立派なことをやっているのだから、そこの情報は、そこから分類したり検索したりすることによって飛んでいくと。できたら項目別に検索ができるようにしたいななんていうよ

うなこともちょっと思ったりもしているわけです。

これは、関西広域連合の今後のバージョンアップの中身として、今まさに我々どうしようかなといって考えていることなので、私が今言ったとおりになるとは限りません。だけど、この二つの組合せで万博というコンテンツがあったら、このコンテンツを誰がどういうふうにして仕掛けをつくっていって、コンテンツとしての動画をつくるか。まずその前に設計があって、動画をつくるということになると、関西広域連合全体のメディアの中で、それが検索されて出ていって、たどり着けるようにしているというメカニズムをつくっていきたいなというふうに思っているということでございます。

それから、コンテンツのもう一つは、いのち輝く未来社会のデザインということですが、これは万博ほど明確にどこにあるということが言えない話だと思いますが、ただ、市長さんのほうも多分ここに置けということじゃなくて、いろんな話があるよねという中でおっしゃっていたと思います。したがって、先ほど言いましたようにメディアとしての分類、検索ができるような一覧性のある関西全体の情報の固まりをつくっておけば、そこからそれぞれの地域地域で、あるいは関西広域連合共通のものもあるかもしれませんが、それが検索できて、その中身が、おっしゃるようにこれから動画の世界というようなものも大いに注目していったらいいのではないかと思います。

ちなみに、ソフトとしてもう既にあるものをご紹介しますと、関西広域連合の兄弟分であります関西観光本部というのがあるんですね。この関西観光本部というのは、関西経済連合会なんかと一緒になってつくっている組織ですけど、この関西観光本部ですばらしい動画を、外国語でサポートする、私は英語だけしか見ておりませんがもっとあると思います。そういうので各府県市のものすごく立派な観光地をものすごく魅力的な動画でつくったものがもう既にあるんですよね。

それから、和歌山県でいえば、和歌山県の観光地を英語で、英語だけじゃないか、イギリス人につくってもらったんですけど、外国人が見て分かるような、理解できる

ような形の観光地案内をつくって、ホームページに載せているんですよね。そういうのが関西というところから、和歌山県と検索したらそれが出てくるというようなシステムをつくっておけば、あるいは関西観光本部という全体にいったら和歌山県が出てくるような、そういうメカニズムをつくっておけば、一つつくったものが関西に対して興味のある人たちに全部アピールできるのではないか。逆に、そういうのがあるということによって関西というこの固まりが浮いてくるのではないか。そんなふうに実は今思っているところであります。

それから、並河市長からお話がありましたが、まさに今、リアルの世界とウェブの世界というのをどんなふうにして持っていったらいいのだろうというのが、もうずっと試行錯誤というか、おっかなびっくり悩みながら進んでいるような気がします。それも、これは私の意見を申し上げますと、一つの線上でどこまでリアルにして、どこまでウェブにするかというようなことだけじゃなくて、この分野って実はウェブを入れることによって全然違う生産性が上がっちゃうという話があるのがだんだん分かってきたということもあるのではないかと思います。例えば、普通のイベントというのを考えたら、会場の制約があって、見に来られる人ってそんなにたくさんはいません。会場の中に入れる人もあるし、それから、交通の便がどうかということによって遠くから来られない人もいるかもしれませんよね、ところがオンラインというのがそこに加わることによって、初めは嫌嫌オンラインでやりましょうなんていってやったのですが、考えてみたら別に場所の制約なく参加できる人を増やすことができる。多くの人に対して情報が伝達できるというようなこともあるし、それから、教育でオンラインを使うことによって、上手な先生が多くの人に授業ができるというようなこともあり得ますよね。そんなことがこれからどんどんと考えられていく時代になっていくのではないかな。だから、必ずしもどこまでがどうのこうのという話ではないような気がします。

ただ、やっぱりリアルの世界もある程度入れていかないといい付き合いというのが

できないので、あるいはリアルな世界に蓄積がある中でウェブで何とかしのいでいるというのが多いから、あまりびびってウェブばかりにするというのはどうかなというふうに個人的には思っております。

それから、デジタル田園都市国家構想の基本方針の中で、これからまちの在り方とか、都市と地方の在り方とか、それから働き方、働く場所の選択の在り方と言ったらいいかもしれませんが、そういうようなのはものすごく変わってくるのではないか。だから、自分たちの地域をどうやってアピールして、多くの人たちに自分のところに来ていただくかという、ちょっと別の競争条件の下でのグローバルな競争が始まっているのかもしれないなと思うんですね。

したがって、そういうことで皆さんも活躍していらっしゃると思いますけども、我々も、また関西広域連合として、関西全体ということを考えなければいけないので、特に東京との関係で、双眼構造を早くさらに強力に実現できるように、東京に対して頑張っていかなきゃいけない、そんなふうに思っているところでございます。

○事務局長（山下芳弘）

続いて、三日月委員、よろしくお願いします。

○委員（三日月大造）

ありがとうございます。滋賀県知事の三日月と申します。

滋賀県には１９市町ありまして、並河市長のお隣に座ってらっしゃる東近江市長の小椋さんが１３市の市長会の会長として日頃から広域行政に対して大変厳しく、とても厳しく、時々温かくご指導いただいているところでございまして、六つの町共々、やっぱり基礎自治体との会話というのは極めて重要だと思っております。時として立場の違うことはあるんですけども、やはり信頼関係を基に、冒頭、仁坂連合長がおっしゃいましたけれども、地に足つけた自治を行っていくという意味で、この対話・意見交換の意義を感じながら、お二方のご意見を聞かせていただきました。

私は、広域連合で広域環境保全を担当しておりますので、先ほど並河市長からいた

だいた二つ目のＧＸ、脱炭素の取組について少しコメントを申し上げたいと思うんですが、その前に、参考資料１の２８ページから、今年度、関西広域連合の広域環境保全でどんなことをやっているのかということを少し横目にご覧いただきながらお聞きいただければと思います。５本柱でやってます。まさに最初の島田市長もおっしゃいました、そして、並河市長もお触れいただきましたけど、地球温暖化対策、脱炭素というのは、この関西広域連合においても極めて重要な課題だということで、できることは限られてるんですけど、構成府県市の取組をぜひサポートしていけるような、そういう取組をつくっていこうということで、二つ目のところに地球温暖化対策の推進というものを入れておりまして、その一つに、再生可能エネルギー導入の促進事業というものを入れているところです。先行事例を共有したり、様々な研修会を開催したり、あと今年度は、１１月に関西脱炭素フォーラムの開催を予定しております。また、昨年度から特に事業者、金融機関を対象にＥＳＧ投資をテーマにしたセミナーも開催しておりますので、こういうことでさらなる取組の促進につなげていきたいと思っております。

そういう中、先ほど並河市長からご提起があったのは、進めようと思っても地方に負の要素がもたらされ、かえって生活や自然環境に負荷がかけられることがないようにというのは極めて重要な課題だと思っておりまして、我々は、ややもすると先行事例だけ共有し合ってたんですけど、ご指摘いただいた負の要素、悩みの部分を共有するというのが少し弱いなと思っております。したがいまして、今年度つくる第５期広域計画の中にもそういった部分を入れながら、もちろん全国的な法改正などによるところも大きいんですけれども、自治体の悩みを共有し合って、解決策を見いだしていくような、そういう取組も充実させていきたいと思っておりますので、貴重なご意見としてしっかり承って、今後に反映させていきたいと思っております。

以上です。

○事務局長（山下芳弘）

ありがとうございました。

続いて、野口広域観光・文化・スポーツ振興局長、お願いします。

○広域観光・文化・スポーツ振興局長（野口礼子）

広域観光・文化振興を担当しており、京都府で観光政策監をしております野口と申します。よろしくお願いいたします。

先ほど島田市長様から、動画を活用した観光振興ということでご発言いただきました。ご紹介いただきました「カンサイジーン」という動画ですけれども、新型コロナウイルス感染症の収束後に、多くの外国人の方に関西に来ていただきたいということで、近畿運輸局と共同で制作した動画でございます。

新型コロナウイルスの感染拡大の状況でありましたので、自然やアウトドア、体験型コンテンツを中心に選んで、アジア人の女性が不思議の国のアリス風に関西各地を旅して、関西各地を紹介するストーリー仕立ての紹介になっております。これまでに世界で約８０万回の視聴もいただき、「第３回日本国際観光映像祭」では、日本部門・旅ムービー部門において、最優秀賞を受賞したものでございます。動画をご覧いただきありがとうございます。

連合長からもご紹介いただきました関西の広域連携ＤＭＯである関西観光本部では、これ以外にも色々な動画を作っております。例えば、「Ｔｈｅ　ＫＡＮＳＡＩ　Ｇｕｉｄｅ」というサイトを設けておりまして、「武士道」や「わびさび」など、和の精神をテーマとした動画では、５００万回以上の視聴をいただいております。地域ごとに深掘りした動画も、実は配信はしていますが、市長様のご発言を聞いておりまして、検索の仕方が良くなかったのではないかとか、動画で紹介したところを、これはこの地域ですとしっかり紹介するところまで深掘りする工夫が必要だったのではないかと思っておりますので、今後、そういったことも含めて、色々な工夫をしながら取り組みたいと思っております。

また、今年度は、これ以外にも色々なテーマやストーリーでつなぐテーマ別観光も

新しい魅力の創出として取り組んでまいりたいと考えております。ちょうど京都国立博物館で、７月３０日から河内長野市にあります金剛寺や観心寺に関する大きな展覧会なども準備されております。

このように関西には、色々な文化財があると思いますので、そういったものを色々なテーマで結びながら、万博に向けて動画の作成なども含めて、しっかりと誘客に結びつくような各地の魅力づくりに取り組んでまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

○事務局長（山下芳弘）

その他の委員で何か追加コメントとか関連コメントございませんでしょうか。荒井委員、よろしいですか。お願いします。

○委員（荒井正吾）

せっかくの意見交換でございますので発言いたします。一つは我々広域連合は、広域的な地方事務というようなことを執行しているわけでございますが、広域的地方事務について、我々市町村も含めた地方政府は、どのような関係を持てばいいのか、どのような役割を果たしていけばいいのかということは共通のテーマではないかと思っています。そのような中で、国の形が変わってきているように思いますけれども、一つの論点として、地方の事務は広域であろうと市町村の事務であろうと国の事務を前提にしているのかどうかというようなことをいつも思います。地方の事務は国の事務の定義、あるいは分掌を超えるのかどうかということでございます。狭く考えますと、義務になる事務、それは明確に「国の事務の一部を分掌するよ」と、これは地方分権の世界でございますが、我々の広域連合は、地方事務の持ち寄りということが基本的な性格でございます。事務の持ち寄りの中で国の事務の受皿にもなるよう分権志向もしているわけでございます。

一方、さらに超えて自発事務というものがあるのかどうか、関西の広域的な地域振興発展のために自発的に考えられる部分があるのかということを思考しております。

広域連合は、事務の所掌がはっきりしており、議会もありますが、自発事務は分権を前提にしなくても自発的にできるというような分野があるのかどうかということが一つの議論のテーマになるのかというように思っております。

地方分権一括法は大変大きな、憲法に匹敵するような法律改正であったように私は思っております。国・府県・市町村は対等な立場であるということになりますと、地方は、憲法や国の法律が明確に禁止していない限り自発的に事務遂行ができる。議会もありますので。そういたしますと、広域連合の持ち寄りのような形であっても新しい地方政府ができるということになるわけでございます。その中での我々は、既存の地方政府であります県と市町村との関係論というようなテーマになるわけでございますが、地方分権は手段で、地方自治の在り方が本来の目標だというように考えますと、地方自治の本来の意味は、平等な立場のものの連携、合併と分権から平等な立場の連携というようなことを志向してもよいのではないかというようにも考えられます。

来週、全国知事会を奈良県で開催します。主催県がセッションのテーマを選べますので、主催県として地方分権から地方自治、あるいは地方政治の在り方について意見交換を行うようなセッションを持たせてもらうことになりました。そのセッションは１０名ほどの知事が参加される予定ですが、さらに、京都大学の待鳥先生と関西学院大学の小西先生にプレゼンをしていただきます。地方行政の主体であります市町村、府県の関係の在り方、立ち位置というようなことについて、地方自治をテーマに議論していただこうと思っております。我々広域連合の立ち位置、将来の姿、あるいは関西における市町村と府県との関係論などが大きなテーマになってくると思います。ご興味があれば後ほど議事録、あるいは資料をお送りさせていただきたいと思います。我々は、これからどのような立ち位置で仕事をすべきかというようなテーマにもなりますので、そのような観点からの視点の一つということで述べさせていただきました。ありがとうございました。

○事務局長（山下芳弘）

ありがとうございました。

これまでの意見交換に関することでも結構ですし、また別の観点でも結構ですので、せっかくの機会ですので。伊丹市長お願いします。

○伊丹市長（藤原保幸）

近畿市長会会長を仰せつかっております伊丹市長の藤原でございます。本日は連合長をはじめ広域連合の皆様方、私ども基礎自治体との意見交換の場を設けていただきまして、誠にありがとうございます。せっかくの機会でありますので、ちょっと私、広域連合のほうに期待したいこと、お願いしたいことについてお話しさせていただきたいと思います。

実は私も市長職が長くなってまいりまして、広域連合立ち上げのときから今日までお付き合いさせていただいております。そして、私が広域連合の活動を拝見しておりまして感じておりますのは、その中心が、今日もお話ありました万博でありますとか、ワールドマスターズゲームズとか、大きなイベントごとをみんなで一緒にやろうやないかという話と、あとはもう１つ、構成する府県、あるいは政令指定市の皆様方が既に取り組んでいること、あるいはこれから取り組もうとする事務の中で広域的に調整したほうがいいもの、観光であるとか防災なんかがそれに当たると思うんですけれども、そういうものを持ち寄って広域連合の場で調整して、一体的に、より効率的に効果的にやろうといったような事業を中心にやってきていただいて、一定の実績を上げられてきたことについては評価させていただきたいと思いますが、ただ申し上げたいのは、それだけでいいんだろうかということであります。先ほど第５期広域計画の中で国土の双眼構造を実現することを目指す、将来像として目指す。二眼レフ構造と昔言ってたような気がしますけど、要は首都圏に対応する関西圏、首都圏に直下型地震かシン・ゴジラの襲来か分かりませんけれども、首都圏に何かあったときにバックアップできるような、国土全体を眺めまして中心となる一つとして、関西のポテンシャルを高めていこうということが将来像として書かれているわけでありますが、ただ率

直に、言い方失礼かもしれません。今の七つの分野で事業をするとおっしゃられてますけど、この七つの分野をやっていった結果そうなるかというと、ちょっとどうなのかなと。少なくともそれ以外にも関西全体のポテンシャルを高めていくためのグランドデザインのようなものが必要で、それに対応する政策が必要ではないか。今、奈良の荒井知事がおっしゃいましたように、広域連合も一つの独立した地方政府でありまして、府県と政令指定都市が一緒になって調整してやるだけなら別に独立した機構は要らないんじゃないかというふうな、ちょっと失礼ながらそう思いました。広域連合でなければできないような、構成府県、あるいは政令市の立場をちょっと横に置いてというと語弊があるかもしれませんけれども、関西全体をどう持っていけば首都圏に伍するような、首都圏のバックアップ機能を持てるような日本の中心の一つとしてレベルアップしていけるのかということを考えていただくことが大事なんではなかろうか。その分野については私も基礎自治体、行政最前線、市民生活に密着した分野をやっておりまして、そういった広域行政はとてもできませんので、ぜひ広域連合にお願いしたい。具体的に申し上げれば、広域交通なんかがまさにその分野ではないかという気がしています。ちょっと私ごとで恐縮ですが、私、関西で生まれ育って、１０代終わりに東京に行って、長らく首都圏で地域づくりとかまちづくりの仕事をしてまいりまして、ふるさとのまちづくりをしたいということで関西に帰ってきまして、ちょうど２０年ぐらいになり、市長も５期目に入らせてもらったというような状態なんでありますが、その中でしみじみ感じますのは、首都圏は着実に広域交通網が整備されてきてるなと。オリンピックまで、オリンピックといっても最初のオリンピックですけど、１９６４年の東京オリンピックが開催されたときには、当時は本当に首都圏と関西圏が二眼レフといいますか、それほど大差がなかったわけですけれども、高度経済成長期どんどん首都圏が整備される中で、関西との差がどんどん開いていって、今や東京で仕事してますと、関西は、東京に次ぐ大都市圏といいますよりは地方の一つというような印象が強くなってるというのが率直なところでありました。

そして、広域交通で申し上げれば、例えば、鉄道の分野であれば全国の新幹線網は東京を中心に慨成している。そして、鉄道でも首都圏の中でも郊外から来る鉄道は東京都心の地下鉄と連結してまして、乗り入れができて非常に便利になっている。道路の例で申し上げれば、全国の高速道路網が、東名だ、中央道だ、関越だ、東北道だ、みんな東京から放射状に全国各地へ延びていく。そして、首都圏の中でも放射道路と環状道路が計画的に整備されてまして、非常に便利になってきている等々であります。空港についても、最初のオリンピック当時、国際空港は関西圏の大阪国際空港、伊丹と首都圏の羽田しかなかったわけでありますけれども、その後、成田ができて、羽田が再国際化されて、国際便の規模は首都圏と関西圏では雲泥の差になってしまっているというのが実態であります。そういうことは一極集中の結果でもあり、原因でもあったかと思うんですけれども、首都圏においては、私もその関係の仕事をしていましたけど、国が中心となって、首都ですので、東京は日本の中心として国が乗り出して、各都県が一緒になって整備した結果、様々な交通ネットワーク、広域交通ができてきて、世界ともさらにも深まってきた。それに対して関西全体を考える主体がなかったんだろうと思います、広域連合ができるまでは。各府県がそれぞれの、知事さんは府県の住民に選ばれて、府県が第一なのは当たり前であります。一方、首都圏では国が考える。日本全体の中で首都圏はどういう役割を持って、どういう交通機能、どういう施設を整備すればいいかは国が考えてきたわけですけど、関西にはそれがなかった。結果としてどんどんどんどん差が開いてしまったというのが実態ではなかろうか。そういう中で私が期待申し上げたのは、関西広域連合ができたのはまさにそういう関西全体のことを考えて政策を企画・立案し、実施に移していただけるのかなと思っておったところが、なかなかいろいろ難しい点があったのかもしれませんけど、それができてこなくて今日に至ってるというような気がいたします。そういう面で今さらそれをどうしろこうしろというわけではありません。

例えばの例で、つい先日、荒井知事から中央リニア新幹線のお話を教えていただき

ました。私も気にはなっておりました。昨年ぐらいでしょうか、ＪＲ東海が発表して、まずは東京・名古屋間を２０２７年につくって、ＪＲ東海の費用でやるので、企業の体力の限界もあるから、名古屋以西、関西までは１０年後だと、名古屋までできた後１０年後だという話があって、それじゃあ関西がますます日本全体の中で置いてきぼりになるなというふうに思っておりましたところ、関西のいろんな各方面のご努力もあったんだろうと思いますけれども、今年の国の骨太の方針で、できるだけタイムラグを短くしよう、資金について公的資金を投入してやろうということになったようでありますけれども、ただ、じゃあそうすると名古屋以西、大阪まで来ることが計画上、決まっているようでありますけれども、それをどういうふうに関西全体のプラスにするのか、関西圏のポテンシャルを高める上で、オール関西としてどう活用していって、それに合わせて、場合によっては既存の鉄道網や道路網、あるいは空港との連結等々についても考えにゃいかんことになるんではなかろうか。特に私どもの地元、伊丹空港がありますので、仮に東京・大阪が１時間、リニアで結ばれるようになれば、少なくとも羽田・伊丹便はなくなりはしないかもしれませんけれども、相当減便されることになるんであろうと。そうしますと、そうした空いたところをどう埋めていくのかといったようなことであるとか、世界とのつながり、先ほど関西のポテンシャルの一つとして、私、首都圏に対する数少ないアドバンテージの一つが、成長セクターである東アジアに１時間近いと。福岡の方はより近いとおっしゃってるわけですけれども、いずれにしても関西が今後ポテンシャルを高めていくためには、アジアとの関係を重視するようなことも必要である。そのためにはくどいですけれども、航空ネットワークだけではなくて、鉄道や道路や様々な利便性を高めることがオール関西にとって必要で、そういうことをやることが、東京、首都圏にいざというときに関西がバックアップ機能を果たせるのではないかと、そんなふうに思っておりますので、ぜひ関西広域連合として今後、そうした広域交通だけではないかと思いますけれども、関西全体のポテンシャルを高めるためにどうすればいいのか、今やってることを調整してうま

くやればいいということでは不十分ではないかと、そんなふうに思っておりまして、失礼ながら私ども基礎自治体ではとてもそういうところできませんので、ぜひ関西広域連合としてお取り組みいただければありがたいと。特にリニアについては本当にそんなに遠い先ではないわけでありますので、名古屋以西をどうしていくのか、駅をどう造って、既存の交通とどうつなげていくのか等々。そして、それを結果としてどう生かすのかというようなことを広域連合としてお取り組みいただければいいのではないかと一基礎自治体としては思うということを申し上げて、意見とさせていただきます。

○事務局長（山下芳弘）

ありがとうございます。広域連合のほうからコメントを、荒井委員お願いします。

○委員（荒井正吾）

藤原市長から、関西広域全体で何をすべきかという意見をいただきました。広域計画は、関西広域連合のステータスであろうかと思います。我々はそれを超える立場も持っておりますので、様々なことを考えて、広域連合とも連携しているというような趣旨も入っているかと思いますが、一つはリニアとおっしゃったので、リニアの名古屋以西の駅を早く作ることについて骨太の方針で決まりまして、それと、三重、奈良、新大阪、個人的な要望で、伊丹までリニアを延伸してくださいということを（ＪＲ）東海と国に申し上げております。関西広域連合としてそれを推すのは時期尚早ですが、強力なインフラでございますので、広域に裨益することは間違いないというように思います。伊丹の国際線、あるいは地方から来られた方がリニアに乗って中部、あるいは紀伊半島、あるいは関西に展開される、逆もあるというようなことができると思います。

もう一つの例が、広域連合の中ではまだ取り上げられておりませんが、大規模広域防災拠点というものが四国、東海にはありますが、紀伊半島にないわけでございます。それに目をつけて、奈良県の五條市というところに大規模広域防災拠点をつくります

ということを国に申し上げたら、国の計画の中に明記されるようになりました。奈良県の事業でございますが、広域的に裨益いたしますので、紀伊半島の南の和歌山県と三重県に共同活用の覚書をつくりましょうということを呼びかけています。空からの救援ですが、日本海まで救援に行けると思いますし、大阪湾の津波対応でもできるというように思っております。将来、もう少し形ができてきますと、広域連合と防災の分野で協力関係ができるかと思っております。まだテーマにはなっておりませんけれども、地方公共団体の事業が広域的に裨益するときに、広域連合が関与してもらうというようなテーマにもなろうかと思います。

広域連合が主体的にいろいろ事業をされる、持ち寄りになりますとまた負担が大変でございます。ドクターヘリなども同じようなテーマかもしれませんので、様々なテーマがあるように思います。また、広域連合としても様々な地方のイニシアチブを拾っていただいて、広域的展開が可能になるようにしていただきたいと思っておりますので、意見を述べさせていただきました。

○広域連合長（仁坂吉伸）

補足になるのか、どうか分かりませんが、私からも申し上げたいと思います。

実は、藤原市長が言われたことはまことにそのとおりでありまして、１００％賛成ということなんですね。前半、関西広域連合はこれでいいのかと言われたんですけど、後半のほうで、広域交通網についてちゃんとしないと駄目ではないかと言われて、そこのところが１００％賛成ということでございます。上げられた論拠も全部賛成ということでありまして、逆に言うと、関西広域連合長兼和歌山県知事としては、すごく怒っているというような、国の政策に対して。それを関西からやっぱり考えていかないといけないということだろうと思います。

もうちょっと言いますと、双眼構造を実現するということが、七つの事務の延長上でできるのかといったら、それはできません。おっしゃるように双眼構造を実現するために何をしたらいいんだろうということを考えるということが大事で、実はそうい

うことを関西広域連合で考えて、それでものにしていこうかということのために、七つの広域事務に加えて、企画調整事務というバスケットクローズを我々は持っています。今１０ぐらいそれがあるんですけど、そのうちの大変重要なテーマが、実は広域交通網なんですね。広域インフラという名前にしてありますけど、その広域インフラというのをどうやって考えようかというのが、藤原市長が言われた、まさにそのとおりなんです。それを我々はそれぞれがばらばらに高速道路を造ってくださいとか何か言っていただけではなくて、それはもちろん否定はしないけども、例えば、和歌山県知事としての私が、滋賀県の道路はこうでなくてはいけませんというようなことを言えるように、哲学と、これは基本的な在り方とか何かいう紙をみんなでつくって、それと、それに合わせた広域インフラマップをつくると。そのマップの実現を共通で働きかける、こういうことを数年前から一生懸命やっています。私がそのプロマネをやったんですけどね。道路についてはマップがちゃんとできまして、大分、実現してきています。一方、鉄道のほうはちょっと内部でいろいろ議論があった。リニアの路線をめぐってというような感じがあったものですから、そのときには鉄道の広域インフラマップがつくれなかったんですけど、今後、そういうこととか、航路とか、そういうことも含めてつくっていくということを目標にしてやっていってもいいのではないかというふうに思っています。

さらに中身の広域交通網について１００％賛成だと言ったんですけど、全部藤原市長が言われたんで、同じこと言うだけですけど、結局、首都圏は国が自分でつくってしまって、それで別に東京都がどうのとか、神奈川県がどうのとか言わなくてもつくってしまえるような道路とか全部できちゃった。どっちが先か分からんけど、需要もあるからどんどんできていって、どんどん整備されていく。一方、関西は、京阪神の一部だけはかなり濃密なネットワークができていっているんですけど、その周辺部、例えば、奈良県とか、和歌山県とか、それから滋賀県の東のほうとか、兵庫県の北のほうとか、どうもほったらかしみたいになっていて、その部分が、例えば、大阪を中

心にして考えると、十分自分のテリトリーとして利用できない地域になっている。それはやっぱり関西全体の発展にならないのではないか。例えば、大阪に本社を構えるある企業があったとして、何かこう周辺が使いにくいようなところに本社を構えておくのはあまりよくないのではないかいうふうになっていきますよね。だから、大阪自体もうちょっと外側に広げていくことを指向するようなことに尽力する、あるいは努力する、あるいは好意的な活動をするということも大事だし、関西全体として団結してそういうこともやっていかなくてはいけないということを私なんかは自らの運動にしてやってきたつもりです。ただ、それがどれぐらいできているかというと、まだ鉄道マップもできていないぐらいなんで、まだまだほんの一歩ぐらいかもしれません。

しかし、そういうことを、双眼構造にするようなことに何が必要かということ、市長さんがおっしゃるように我々自身が考えて、さっきのインフラマップ以外にはそうたくさんないものですから、これからそれを考えていくというのが広域連合の仕事かなというふうに思います。受皿としては企画調整事務の中で考え、それが発展してきたら新しい七つの次の仕事にしていってもいいということになっていくのではないかと思っています。反省を込めて、市長さんは本当にいいこと言うなと思いながら、若干のコメントをさせていただきました。

○事務局長（山下芳弘）

ありがとうございました。

それでは、手を挙げていただいた、堀和束町長さん。

○和束町長（堀　忠雄）

京都府町村会の副会長を仰せつかっています和束町長の堀でございます。一言、私のほうからこの貴重な時間をいただきまして、ワールドマスターズ大会に向けてのお願いをさせていただきたいと思います。

最初に、先ほどから詳しく２０２７年の５月開催の方向でこれからの方向性を示していただきましたが、これまでの間、連合長はじめ関係者の皆様方にはいろいろとご

苦労いただいたことに対し、初めに感謝申し上げさせていただきたいと思います。

この大会は、私どもにすればこの２２年、そして２５年とアクセルを踏んできました。さらに今後踏み直そうとするときは、今ご指摘いただきましたように機運を高めていこうというのは非常に大事であるわけなんですね。ところが、この大会というのは全体的なところではまとまりますけれども、私どもの大会を受ける種目によっては種目ごとに非常にいろいろ課題もあります。私のところはマウンテンバイクですが、山の中を走るという自然のところでの競技ですので馴染みがうすく、その意味ではまだまだ機運を高めていかなければなりません。さらに加えてそれぞれ取り組んでいる市町村の課題もあると思うんですね。またそれによって機運の盛り上げ方、そしてその大会そのものを盛り上げていくことが重要で、和束町でしたらお茶のまちですので、ぜひこの機会に「和束茶」を世界に向けて発信していく、ちょっとこれは開催地の欲のあるとこかも知れませんが、こういうことも含めて広く課題にしてきているわけです。これからあらためてアクセルを増やしていこうという中で、そして、機運を高めていこうと、それぞれの市町村の思いもありますので、これら調整をお願いしたいと思います。先ほど連合長は、史上空前の大会と話されていました、今まで私たちが言ってきたのは、アジアで初めての開催だと、こういうことを申し上げてきたのですが、台湾大会が先んじてあるということになれば、それはもう史上空前の大会でやっていく以外にはなく、そのスローガンの下に、それぞれの関係団体はもちろんのこと、この関西地域が全体で盛り上がっていくということが非常に大事なことと思います。そういう意味で細かく関係市町村なり、また関係の競技団体の意見を聞いていただける機会を設けていただくなど、そういった中で調整を進めていただくと非常にありがたいことです。これ連合にお願いするのか、組織委員会にお願いするのか、ちょっとここが私も分からないところがあるわけなんですが、ぜひとも史上空前の大会にしていくためにも、ここに重ねて各市町村のそういった意見をくみ上げていただいて、調整していただきたく、ぜひこの機会にお願いをしておきたいと思います。貴重な時間を

いただきありがとうございました。以上でございます。

○事務局長（山下芳弘）

それでは、仁坂連合長、お願いします。

○広域連合長（仁坂吉伸）

いいご意見ありがとうございました。

まさに史上空前といいましたのは、実はもう既にワールドマスターズゲームズ2021の段階で、史上空前になるはずだったんです。というのは、参加者の見込みが、ワールドマスターズゲームズの過去の実績があるんですけど、あれからすると日本のワールドマスターズゲームズイン関西は一番多い大会になるはずだったんですね。ところが、コロナでできなかったということなんです。消化試合みたいな形でやろうと思ったら、それはできたんですけど、それだとほとんど外国からも客が来ないし、何かやったことになっているというのはばかばかしいですから、うんと延ばさせてもらったということなんですね。もうどこで何をやるかというのは全部決まっているわけですけど、それを２０２７年に平行移動して差し支えないかというのをこれから考えていただいて、確認できたらもうそれでフィックスしていこうと思ってます。

今度はそのプロセスで、町長さんのおっしゃるようにいろいろなご意見とか悩みとか、いろんなものが出てくると思うんですね。それは組織委員会がありますので、広域連合でも別に代弁はいたしますけど、組織委員会でそれを拾いながら、これから詰めていくと。時間は結構ありますからね。そういうことになろうかと思います。

町長さんのように忘れないで言ってくださる方がたくさんだったら、それは何の心配もないんですけど、しかし、大分延びたものですから、何か忘れちゃったなというふうになると、これはちょっと盛り上がりに欠けるし、最後にダッシュをしようと思ってもなかなかきかないかもしれない。最後はがっとダッシュしていくんですけど。

したがって、今から忘れないように、もう５年後に迫っているぞとかいう話をいつも考えながら我々は準備を続けていかないといけないので、そのために機運を消さな

いような、そういういろんな仕掛けをつくっていくと。ＰＲ、それからネット、それから時々イベントと、こんな感じになると思います。イベントの中にはみんなで集まって何か騒ぐというのもありますが、大会そのもの、スポーツ大会そのものをワールドマスターズゲームズの機運醸成に使う。プレ大会としてどんどん位置づけていって、そのときにもうじきありますからねという話でそこの大会をやるというようなことを心がけてやっていきたいなというふうに思います。

したがって、どんどんいろんな話があったらおっしゃっていただいたらよろしいかと思います。

○事務局長（山下芳弘）

まだまだご意見いただきたいところですけども、終了予定時刻が近づいてまいりましたので、申し訳ありませんが意見交換会をこれで終了したいと思います。

最後に、仁坂広域連合長から閉会のご挨拶をお願いいたします。

○広域連合長（仁坂吉伸）

今日は本当にいいご意見ありがとうございました。聞いていてなるほどとか、感動するような話がありまして、私たちもそういう皆さんのご見識、あるいは関西広域連合に対する期待、そういうものにちゃんと応えて、今日のご意見を踏まえて我々自体の仕事を改善していくということをやっていきたいと考えております。

皆さん、本当に今日はありがとうございました。

○事務局長（山下芳弘）

以上をもちまして、意見交換会を終了させていただきます。

本日はお忙しい中ご出席いただき、本当にありがとうございました。

閉会　午後４時４５分